

フルージュ 一日観光

(天井のない美術館)

写真集2



ブリュッセルからフルージュへ 電車は空いていた



フルージュ中央駅

ブリュッセルから、鉄道で1時間ほど



朝一番のフルージュ
町に人気がなく 静か



朝一番のフルーデュ



ブルージュの街を囲むように流れる運河



マルクト広場



フルージュ市庁舎



フルージュ マルクト広場

マルクト広場



フルージュ市庁舎
15世紀に完成したファサードが特徴的な
ゴシック様式の建物です。



馬車のオフジェ



マルクト広場で一休み



マルクト広場

ヤン・ブレイデルとピーター・デ・コニンクという名のフランスの圧政に立ち向かった中世14世紀のブルージュ市民の像。





ベルフォート（ブルージュの鐘楼）

高さ83メートル、366段の階段を登りきった先には、ブルージュの街を見渡せる絶景が広がる



ベルフォート（ブルージュの鐘楼）

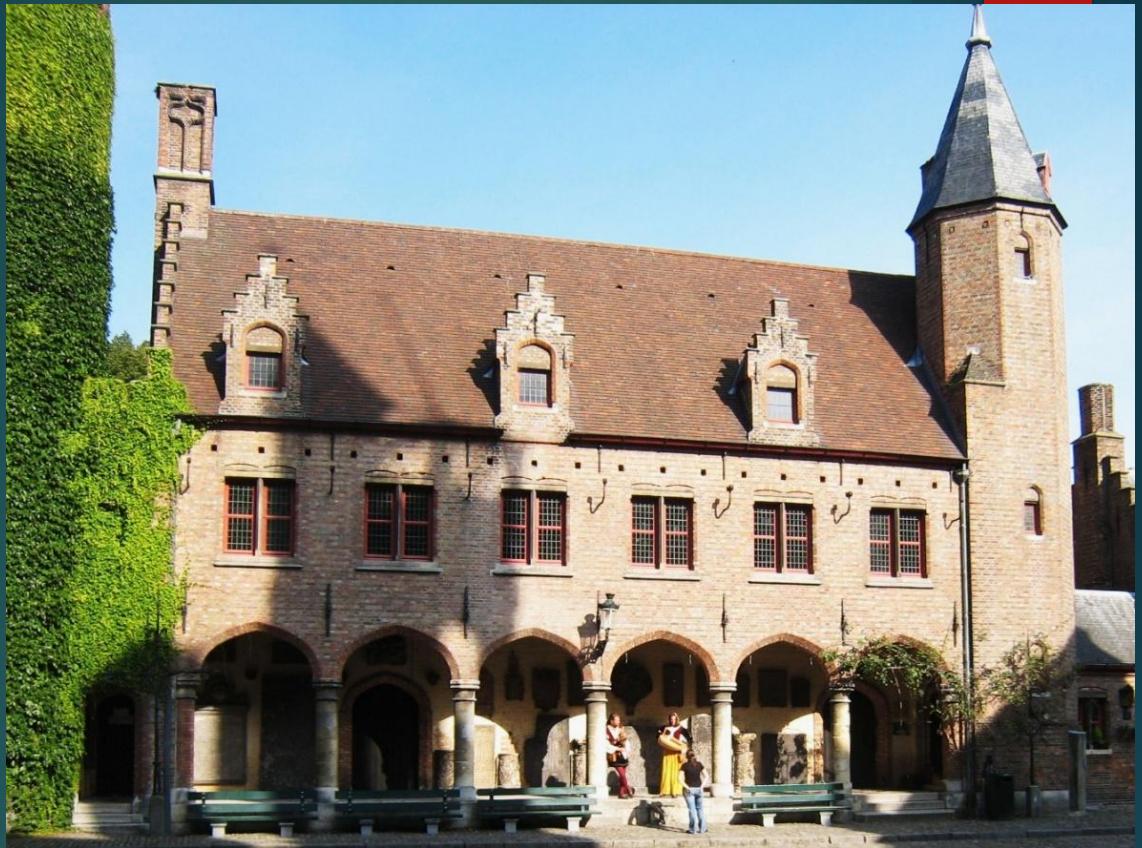


聖母教会

122メートルの背の高い尖塔が特徴



聖母教会



町の教会：結婚式のために民族衣装を着た人々



運河クルーズ乗り場



フルージュを取り囲む運河のクルースツアー

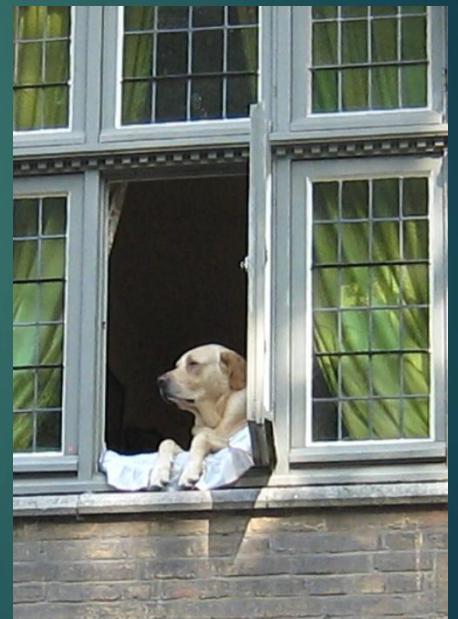
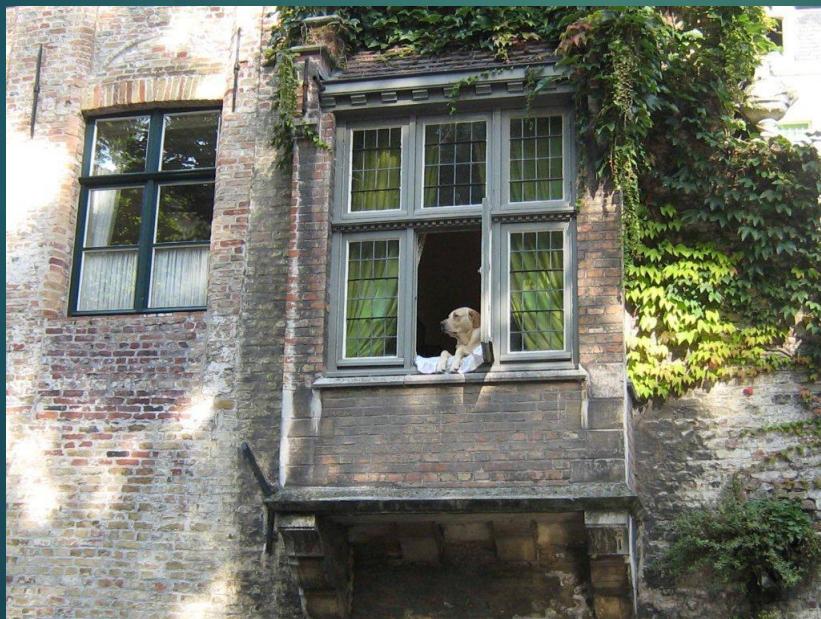
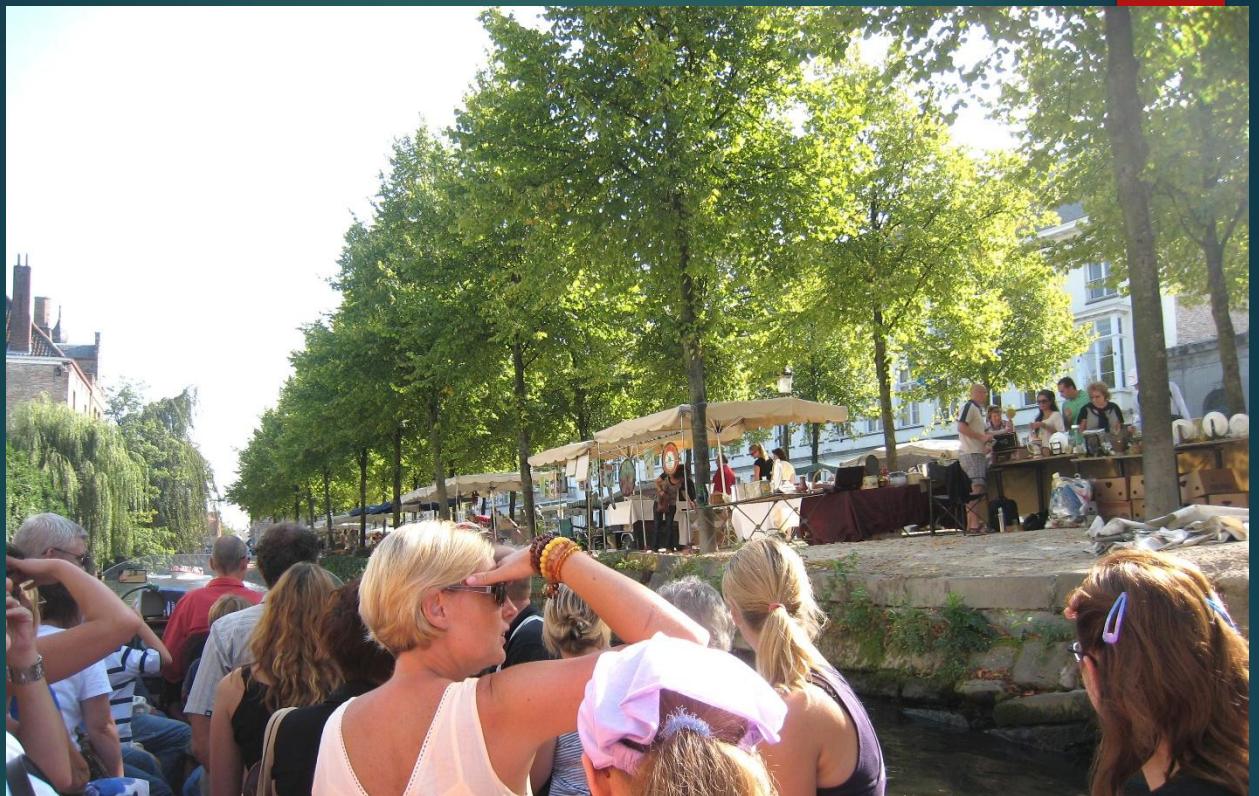


運河クルーズ乗り場





運河クルーズ乗り場



運河を眺める有名な犬



ブルージュ 運河クルーズ



ブルージュ 運河クルーズ





ブルージュ 運河クルーズ



偽警官が出没した駅近くの運河沿いの歩道

偽警官による現金強奪未遂事件

二人組のスリの手口

フルージュ観光をおえて徒歩で駅に帰る途中の出来事。

美しい運河沿いを歩いて、もう少しで駅というとき、向こうから歩いてきた観光客風の男性に呼び止められた。

観光客風の男性は、一人旅なのですまないが自分をビデオに撮ってくれと頼んできた。

私が快く彼の依頼に対応していると、背の高い別の男が現れ、我々に近寄って来た。

その男は、いきなり「私は警官だ」といって警察手帳<police>と書いてある手帳を我々見せた。

次に「英語は分かるか、今何をしていた？」と問いただしてきた。

そして、その警察官は現在私は麻薬の密売の取り締まり中であり、君たち調べる、パスポートを見せろ」と言い出した。

ビデオの男がパスポート見せ、続いて私も
パスポートを見せた。

警察官はパスポートをすぐに返却してくれた。

やれやれと安心していたら、今度は警察官が財布を見せろと言ってきた。

ビデオの男は、素直に札束がいっぱい入った財布を差し出し警察官に渡した。

次に私もつられて財布を出して、警察官に差し出そうとした。

その時、

「お父さん、 オカシイ」と言って妻が私を制止め、私の体を引っ張ってくれた。

私たちは警察官を睨みつけて、その場を一目さんで逃げ出した。

ビデオの男と警察官は仲間のようで、ビデオの男が囮になって、私たち安心させて、お金を奪おうとしたようだ。

危機一髪だった。

幸い、彼らは我々を追いかけるような真似はしてこなかった。

多分私の財布の中身が奪うに値しない中身だったのが幸いしたのだと考えれる。

運河沿いの人気のない散歩道の出来事だった。





駅近くのミンネワーテル公園

ゲント（ヘント）

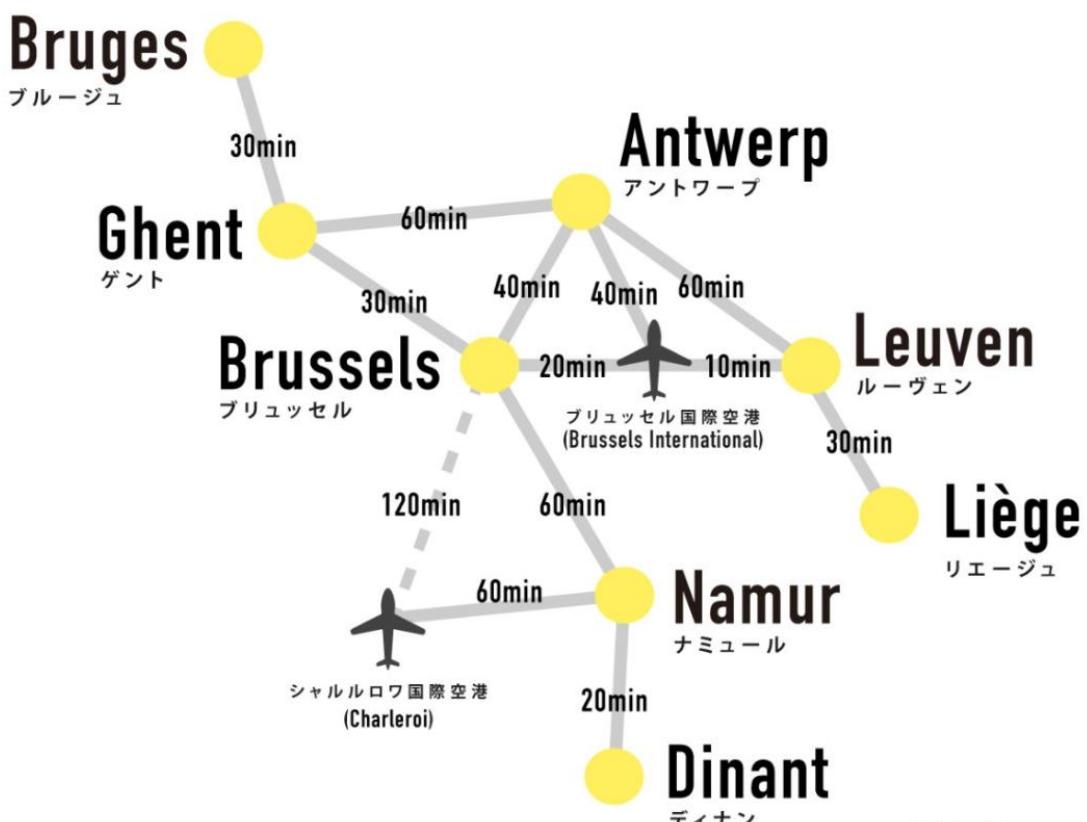
南東に位置するブリュッセル、
北東に位置するアントウェルペンに
次ぐベルギー第3の都市ゲント。



15世紀にはフルゴーニュ公国の主要都市として、
フルゴーニュ公フィリップ3世
(善良公、ル・ボン) の統治下、経済的、
文化的にも発展。裕福な市民の寄進により、
フーベルト・ファン・エイクとヤン・ファン・エイク
の代表作である「神祕の子羊」が作成されたのも
この時代である。



ゲント中央駅構内





ヘント＝ゲントのピーテルス駅



フランドル伯居城



フランドルの宰相ロランの聖母

初期フランドル派の画家ヤン・ファン・エイク作

広大な背景には宮殿、教会、島々、塔を持つ橋、川、丘、野原などが詳細に描かれた町並みが表現され、この風景はロランが居住し、またそこに多くの土地を所有していたとされるブルゴーニュのオータンであると考えられている。



鐘楼

手前にあるのは聖ニコラス教会
奥に見えるのがゲントの鐘楼

背後にバーフ大聖堂



鐘樓、聖ニコラス教会



ゲント 鐘楼、聖ニコラス教会



ゲントの運河

ギルドハウス



劇場。フレスコ画のある正面ファサードが美しい



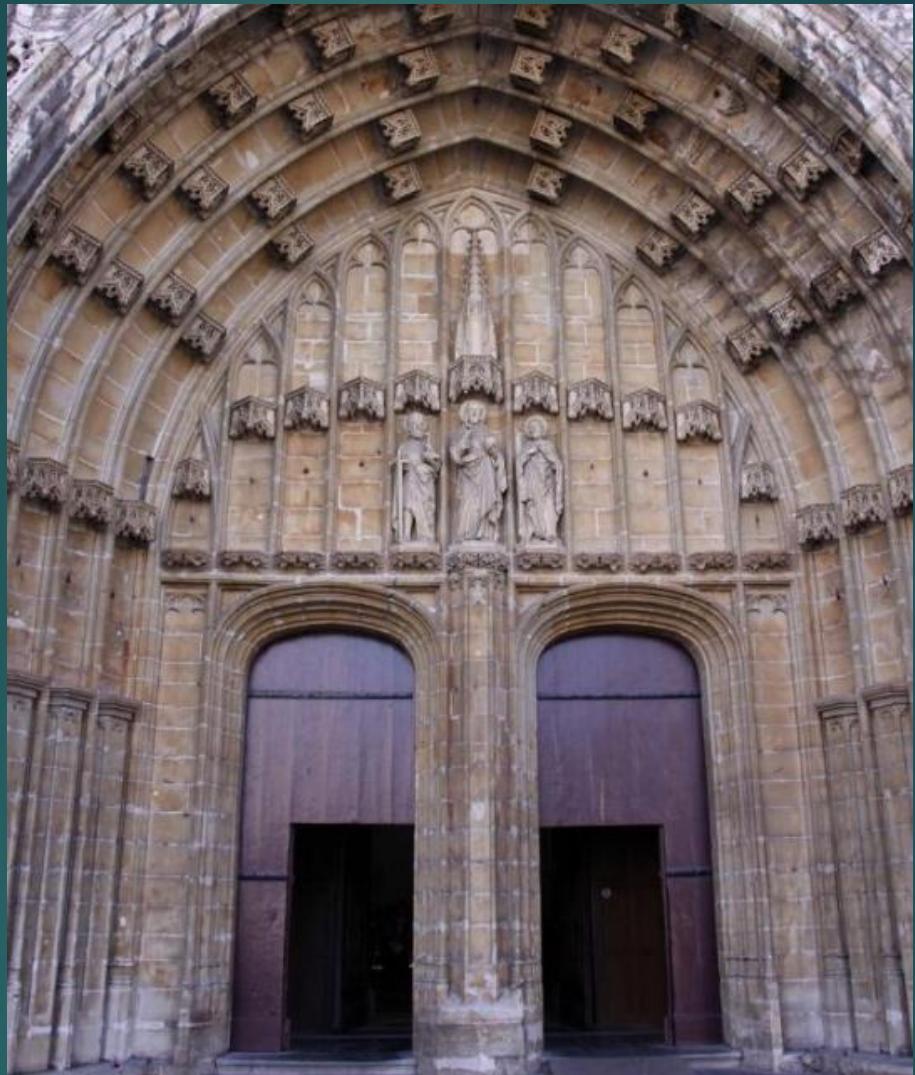
ゲント：ファン・アイク兄弟の銅像
背後が聖バーフ大聖堂



ファン・アイク兄弟の銅像



聖バーフ大聖堂



聖バーフ大聖堂

バーフ大聖堂の正面の入口部。ゴシックの彫刻が美しい。



バーフ大聖堂



バーフ大聖堂



聖バーフ大聖堂内の祭壇画

「ヘントの祭壇画(神秘の小羊の祭壇画)」

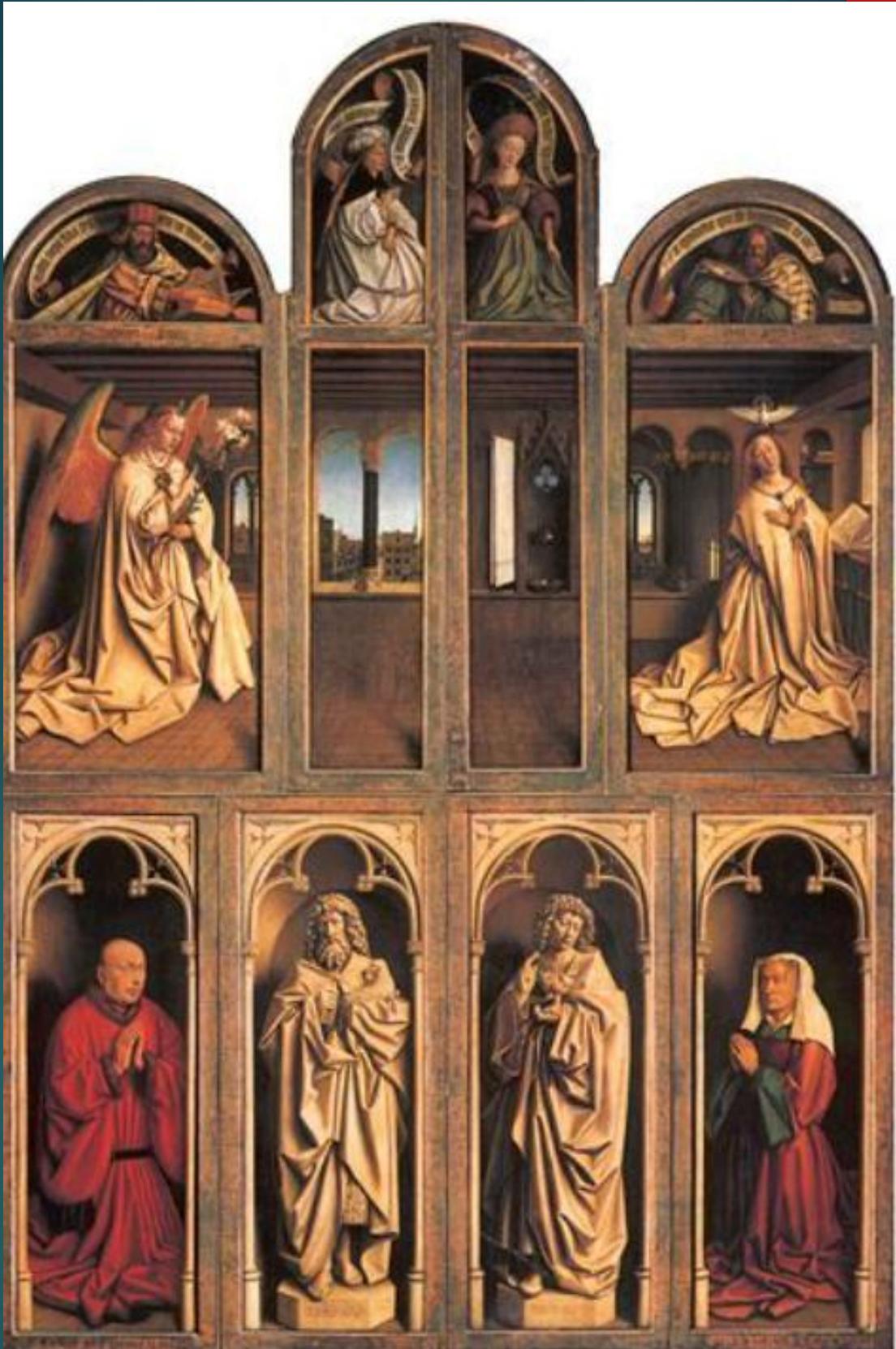
写真はレプリカであり自由に祭壇画の開閉
を行うことが出来た。

本物は専用展示室で鑑賞可能： 有料



パネルを開いた状態



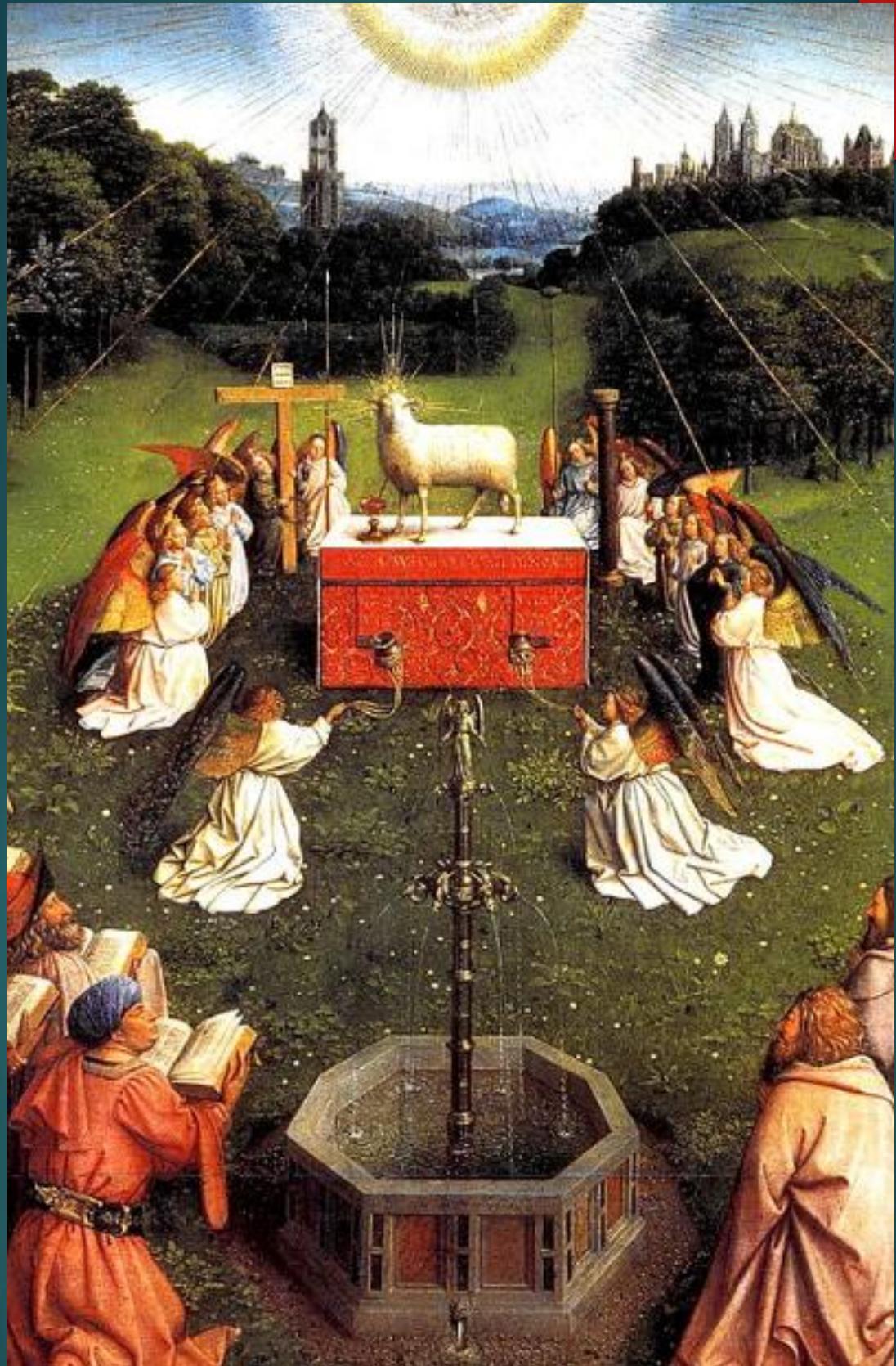


パネルを閉じた状態

この三連祭壇画を、閉じたときに観れる裏面の絵画。
受胎告知の場面です。



パネルを開いた状態



精靈、神の子羊、天使、生命の泉



神秘の子羊 神の子羊



聖靈、神の子羊、天使、生命の泉

ファン・アイク兄弟作の祭壇画



気が遠くなるほどの細密表現



受胎告知の場面



大天使ガブリエル

中段、左の拡大



ヤンファンエイク作《ヘントの祭壇画》「父なる神」（部分） 1432年

*科学的な調査によると、薄く重ねられた絵具の層は8つの層があり、明るい不透明からより暗い半透明へと段階的に色を重ねることによって、光沢のある透明感を出していることがわかりました。



ヤン・ファン・エイクの自画像と
考えられている肖像画



「合唱の天使」舌や歯の位置までもが精密に描かれ、コーラスのどのパートを担当しているのか判断できるといわれる。

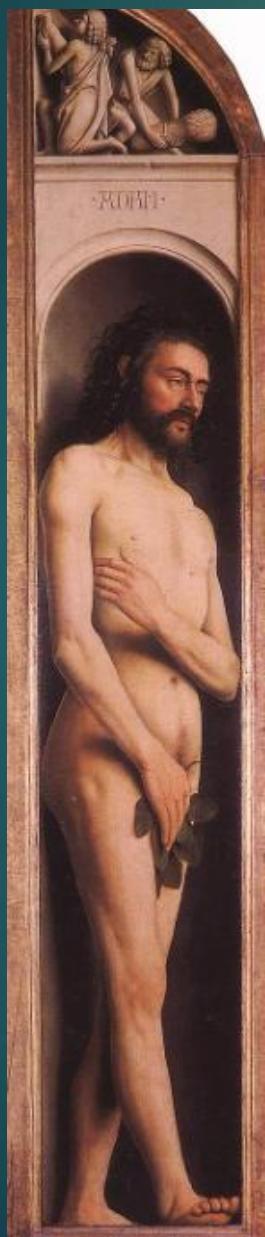
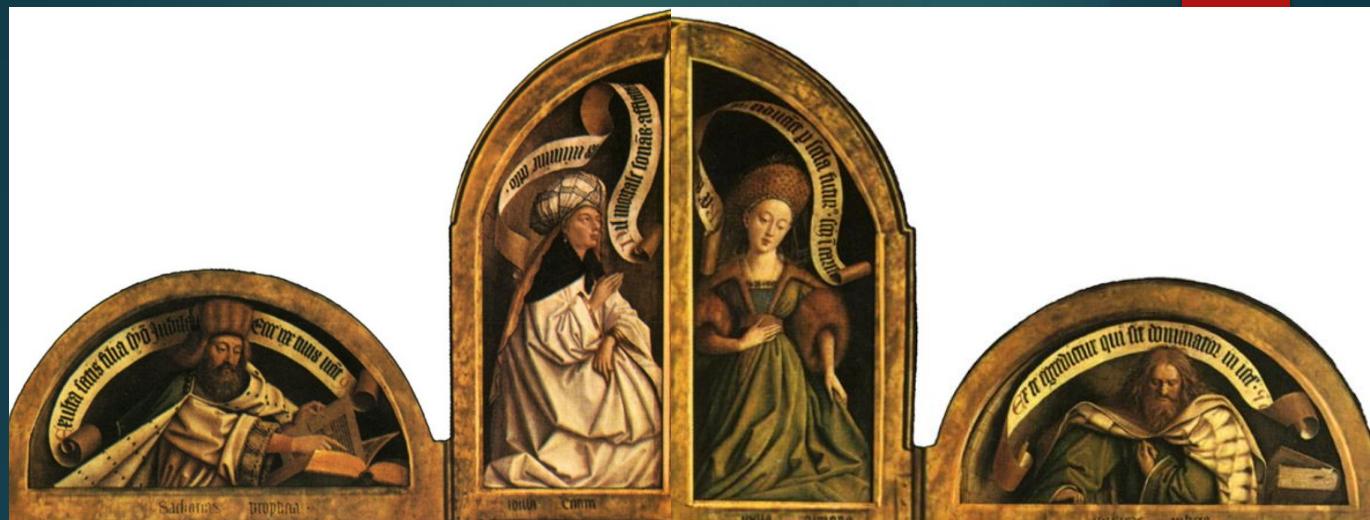




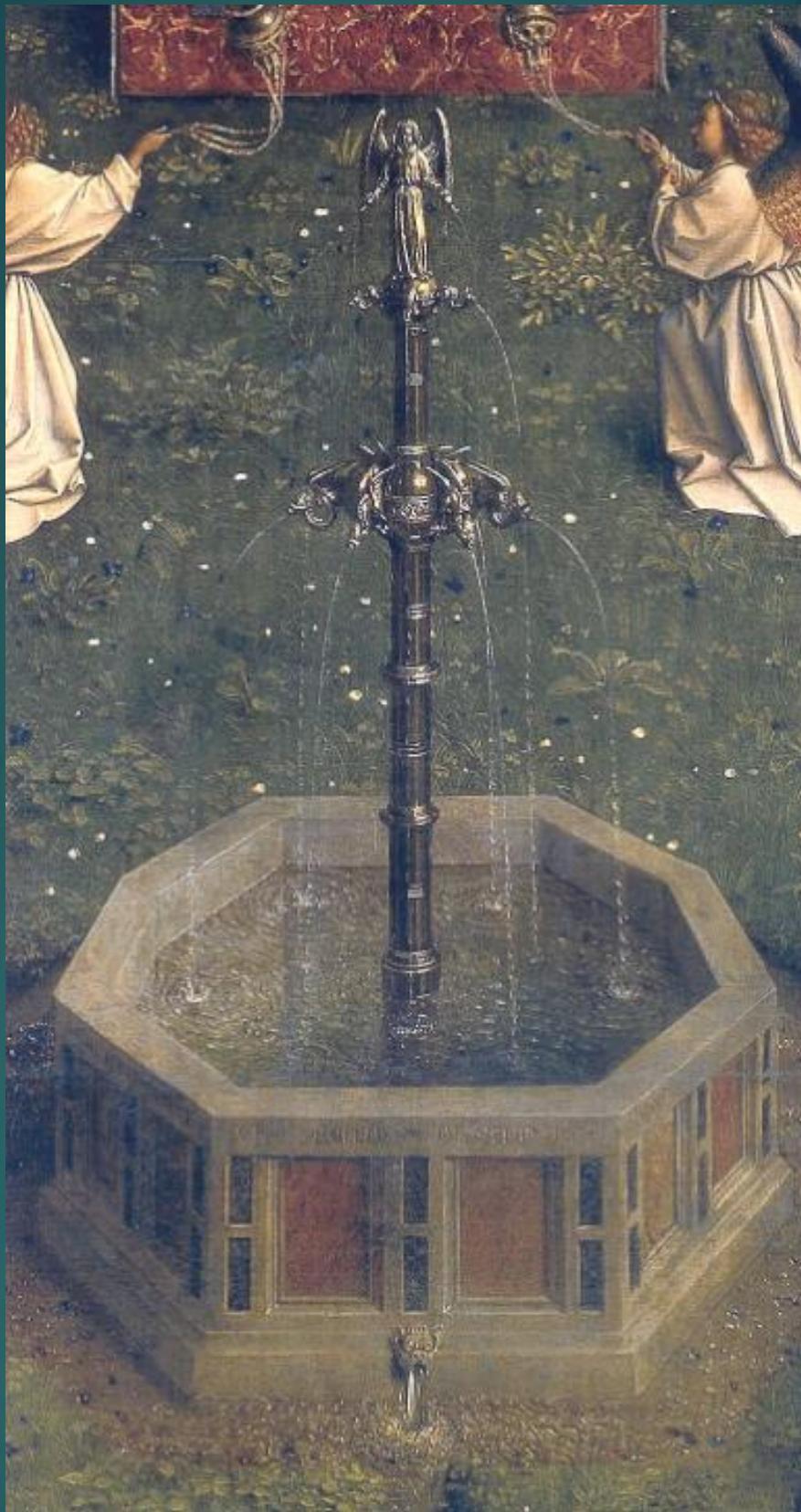
「キリストの騎士」

光を反射してきらめく甲冑や馬具が精密
に描かれている。





アダムとイブ と 民衆



生命の泉を象徴する噴水。中景に
描かれた祭壇と同じくパネル中央
の中心線上に描かれている



十二使徒、ローマ教皇、聖人



異教徒とユダヤの預言者



女性殉教者



男性殉教者

ストラスブール

国境の町



ドイツとフランスが領有権を争った土地として有名である。言語や文化の上ではドイツ系であるといえるが、第二次大戦以降、政治的にはフランスに属する。神聖ローマ帝国の領地となってから20世紀まで、アルザスは戦争の度に蹂躪され続けた。



ホテルグーテンベルグ



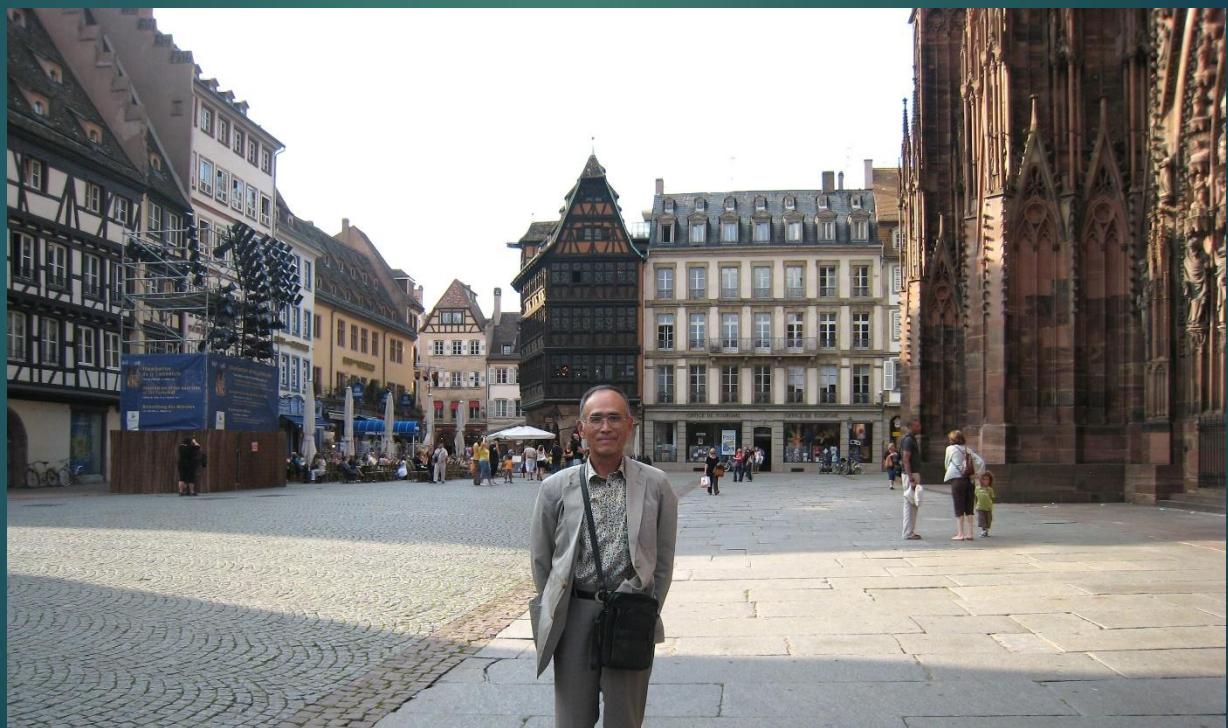
宿泊はホテルグーテンベルグ
大聖堂の近く



カテドラル（ストラスブール大聖堂）

聖母マリア大聖堂

The Cathedral of Notre Dame in
Strasbourg, France



大聖堂の前





大聖堂の前にあるグーテンベルクの彫像 があるグーテンベルク広場



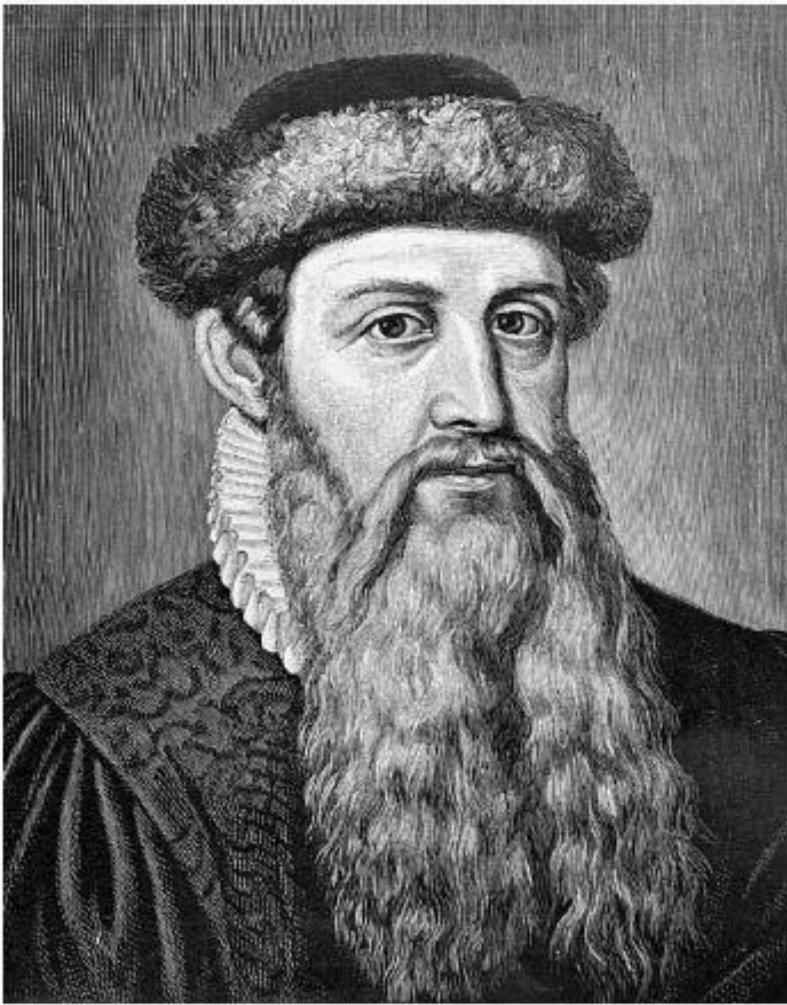
美しいトラム



グーテンベルク像。 酸性雨でダメージを受けている。

グーテンベルクは1444年ごろまでストラスブールに住んでいた。
この街で彼は独自の方法で活版印刷術を完成させた。

ヨハネス・グーテンベルク
Johannes Gutenberg



生誕 1398 神聖ローマ帝国 選帝侯領 マインツ

グーテンベルクやカルヴァン、ゲーテ、
モーツアルト、パストゥールなどが人生
の一時期をストラスブールで過ごした。





ストラスブール 聖母教会前

ストラスブール市街



象徴的なストラスブール大聖堂、プティット・フランスの美しい運河



ストラスブール市街





フランスとドイツの建築様式が融合した、魅惑的な街ストラスブール



運河のある町



プチフランスの街並み

木組みの家





ストラスブール市街





写真集2 END